

The International Conference on Continuously Variable and Hybrid Transmissions 2010

出張報告書

作成日：2010/11/24
文責：構造工学研究室
2010 年度大学院 1回生
平野 啓司

会議詳細

会議名：CVT-Hybrid International Conference 2010

開催時期：November 17-19, 2010

開催場所：MECC conference centre, Maastricht, Netherlands

発表題目：Study on in-situ torque ratio estimation based on the transfer function change in rotation between two pulleys

発表者：Keiji HIRANO

連名者：Kazuya OKUBO, Toru FUJII, Kyohei SAKAGAMI, Shuji ICHIJO, Hideaki YOSHIDA, Toru YAGASAKI

発表形式：Oral (30 minutes)

学会HP：<http://www.cvt2010.org/>

私は、2010年11月17日-19日に全州で開催されたCVT2010という国際会議に参加しました。多くの企業の方々や大学教授の先生、博士課程の方々の様々な研究発表を聴講すると共に、私自身も、CVTに与える油圧の高効率な制御手法について発表いたしました。

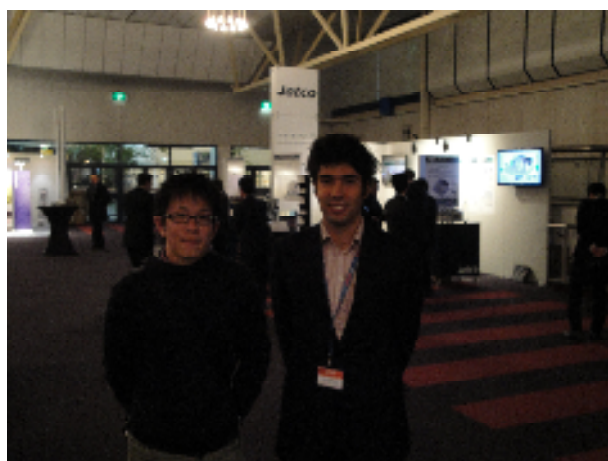
私にとっては、初めての英語発表であり、日本語での発表経験も自動車技術会の卒研発表会のみだったので、かなりプレッシャーを感じていました。そのため早めにプレゼンのスライドを作成し何度も練習して発表に望みました。その結果、大きく詰まることもなく、無事終えることが出来ました。制御手法の切り替え点についての質問にも、なんとか答えることが出来ました。理解して頂けたようです。

最適な油圧の設定方法については、各大学、企業の方が関心を持っているように感じました。アイントホーフェンの博士課程の方も振動に着目した制御を行っており、優れた制御理論に思えました。一方で、私達の制御手法の優位性も確認できました。この会議では、自動車部品メーカーBotshやトランスミッションメーカーのJatco, Eindhoven 工科大学をはじめとする方々の意見を聞くことができ、また、最新の副変速機付 CVT やトロイダル式 CVT の展示物を見ることができて、非常に勉強になりました。

最後に、このような素晴らしい経験を与えて下さった藤井先生、大窪先生および当研究室関係者の皆様に深く感謝いたします。



CVT搭載のフォーミュラカーのデモ走行を見学



留学生コースに再会。本学会で発表していた。



チェーン式CVTの展示品



町で見かけた景色



ホテル近くの教会



マーストリヒト駅にて。帰路は藤井先生と同行。